

人生は夕方から楽しくなる



「タイガース再結成なんてあり得ないと思っていた。それが起きるから人生って面白い」＝横浜市中区の横浜中華街で、手塚耕一郎撮影

肉まんの湯気が立ち上る横浜中華街。グループサウンズ(GS)の人気バンド「ザ・タイガース」のドラマーだった瞳みのるさん(66)が撮影中、店の前の女性に中国語で話しかけた。女性は笑って「没関係(マイクアンシー)。(気にしないでいいですよ)。「邪魔にならないですか」と聞いたんです」

中華街で取材したところ、タイガースが今年12月、オリジナルメンバー5人で再結成されるというニュースが飛び込んできた。「音楽の力で僕らは若いころに、ファンは少女

# 生きている限り青春は何度も来る

## 教員から再びタイガースへ 瞳みのるさん

ひとみ・みのる 1946年京都市生まれ。慶応大大学院修士課程修了。瞳さん原作の戯曲を上演する「OPEN YOUR EYES」東京公演は2月8日、日本青年館で。

のころに戻る。楽しみです」  
タイガースは京都市に育った瞳さんが高3の時、友人たちと結成した。活動場所を大阪に移すと人気に火がついた。「ハーモニーの首城の広さなら負けない。世界を目指せ」と思っていました。東京の芸能事務所に入社して67年にデビュー、GSの頂点に立った。

散を切り出したんです。僕は物を知らないと感じていたので勉強をしたかった」。

11年秋、沢田さんのツアーで岸部さん、森本さんと40年ぶりにステージに立つ。客席のどよめき、傍らに仲間。ツアーは修学旅行のようだった。「しゅっくへる我が家に戻ったようでした。10代を過ごした仲間とは言葉を飾る必要がなく安心できます。人生には限りがある。長い別れは終わらせたいと思いました」

華やかなステージの裏側は違った。「事務所が敷いたアイドル路線に疑問が生じたんです。ベトナム戦争の最中なのに無関心でいいのかと……」。同じ悩みを抱えていた加橋かつみさん(64)が脱退したのにショックを受けた。岸部さんの弟の四郎さん(63)が加入した。が、「世界は遠のきました。メンバー各自目指す方向が違ってきて、僕が解

「生きている限りは何度でも青春は来ます。70歳、80歳になっても自分らしく生きられれば最高の人生でしょう」

瞳さんの3度目の青春はそれだけではない。日本語、中国語両方の詞で歌える曲の創作に取り組んでいる。そのためにも北京にも居を構えた。初めて原作を担当した戯曲が来月、日本で上演される。中国の京劇と日本舞踊のコラボレーションが見どころだ。

シャアだった中井国二さん(故人)が面会を求めてきた。中井さんは「君たちはいい友達だったのに、我々が仲を壊した」と頭を下げた。「その一言で心が開いたんです」。中井さんと共に沢田さん、岸部さん、森本太郎さん(66)と会った。「ゆっくり飲みながら昔話をしました。するとみんなの顔が少年に戻っていました」。沢田さんらが瞳さんにあてて作詞したという「Long Good-bye」を

「漢字を共有するのは日中しかないんです。双方の文化は折り重なっている。だから分かり合える部分がある一方で、違う点も明確にある。そう認識していれば相手を理解しやすい」



【宮田哲】

MAINICHI

# 新毎日

夕刊

1月25日(金)

2013年(平成25年)